

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、病害虫発生予報第7号(10月)を発表したので送付します。

平成14年度病害虫発生予報第7号(10月)
主要病害虫の発生現況及び予報の概要

【果 樹】

作物名	病害虫名	発生現況 (平 年 比)	発生予想 (平 年 比)
カンキツ	ミカンハダニ	少ない	少ない
カンキツ カキ	カメムシ類	並	やや少ない

【果 樹】

1 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年より少なく、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬の調査では寄生葉率は平均1.3%(平年:9.3%、前年:4.3%)、発生ほ場率は21.1%(平年:53.3%、前年:47.4%)であった。

イ 気象予報では、10月の気温は平年並、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 果実に被害が認められない場合は、防除を行う必要はない。

イ 各種薬剤に対する感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

2 カンキツ、カキのカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少なく、前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬のカキの調査では、被害果率は平均6.3%(平年:4.0%、前年:2.9%)で被害が多く発生している。

イ ヒノキ球果の口針鞘数とピーティング調査の結果から、8月上旬には

すでにヒノキ樹上から離脱しており、その後の増殖はほとんど無いと考えられる。

ウ 筑紫野市吉木の予察灯・集合フェロモントラップにおける9月1半旬～9月5半旬までのカメムシ類の誘殺数は、下表のとおりで9月2半旬以降減少している。

エ 気象予報では、10月の気温は平年並、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気温の高い日は果樹園へ散発的に飛来することが予想されるので、発生状況に応じて防除を行う。

イ 収穫期に入るため、防除薬剤は平成14年度果樹病害虫防除基準を参照し、農薬安全使用基準(収穫前日数・使用回数)を遵守する。

また、樹種によって使用できる薬剤が異なるので注意する。

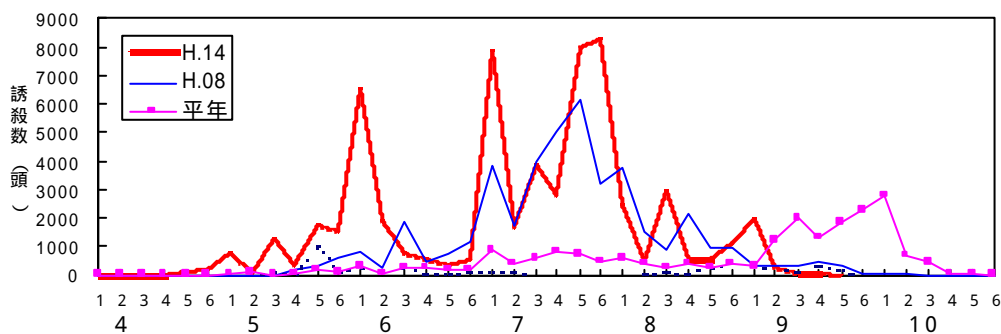
(平成14年7月18日付け果樹カメムシ類警報第1号を参照)

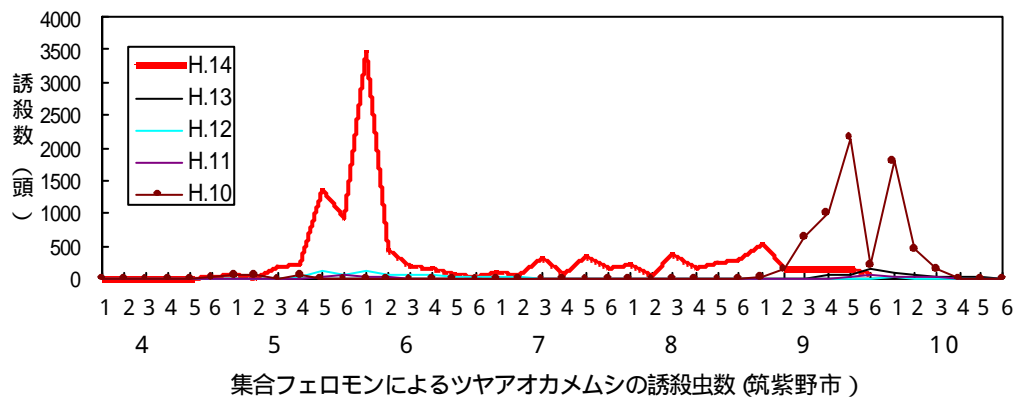
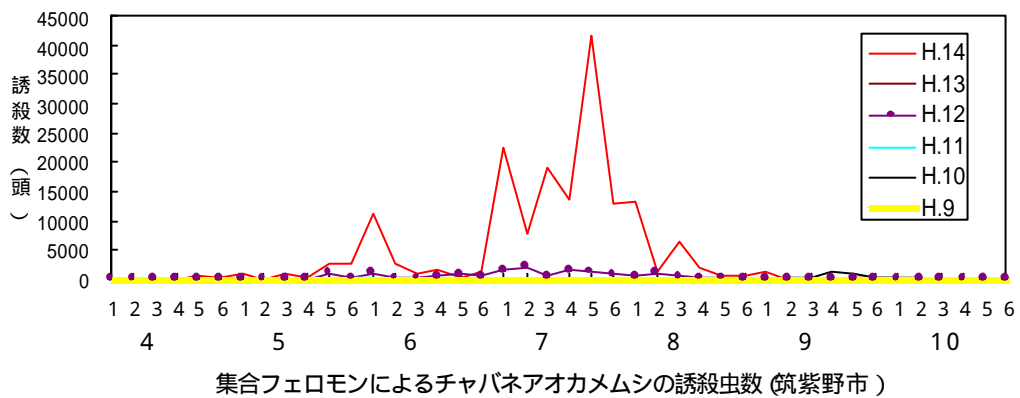
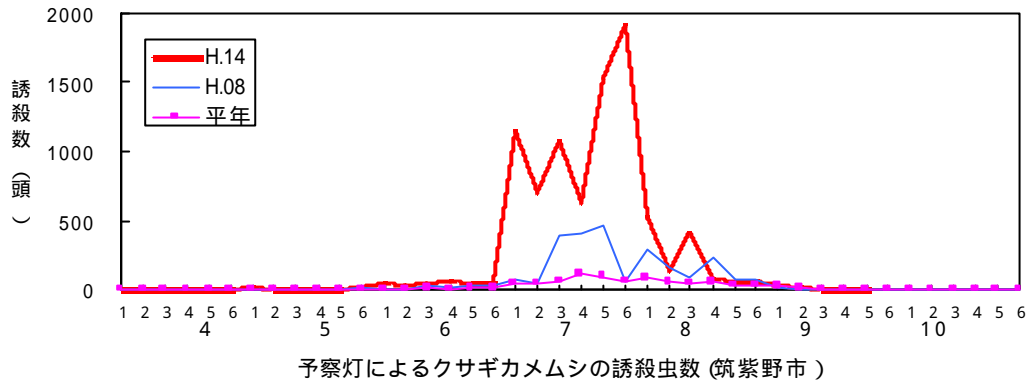
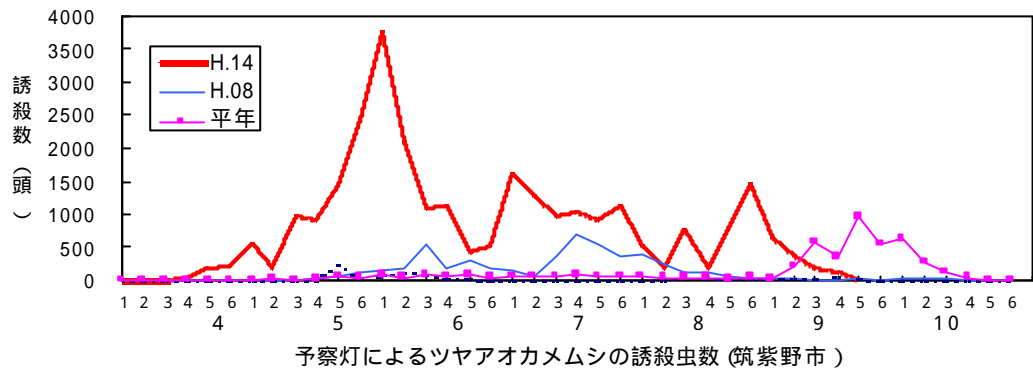
予察灯及び集合フェロモンによるカメムシ類の誘殺虫数(筑紫野市吉木)

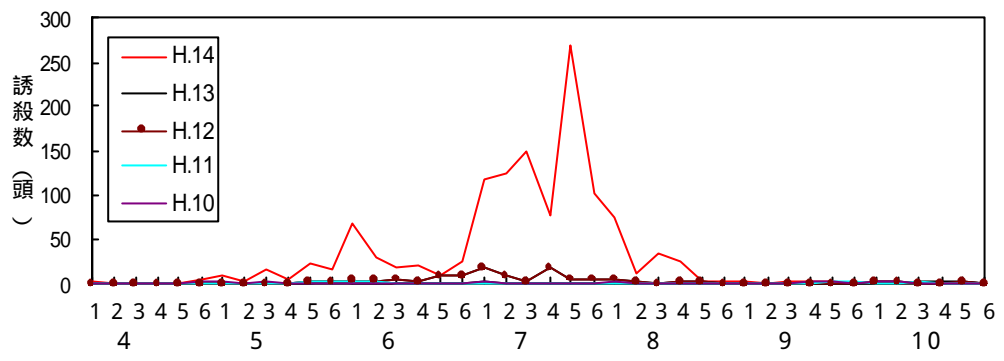
調査時期	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ	
	予察灯	集合フェロモントラップ	予察灯	集合フェロモントラップ	予察灯	集合フェロモントラップ
9月1半旬	1,945(587)	1,397(6)	650(20)	520(0)	33(42)	4(0)
2	218(885)	119(8)	363(46)	169(0)	9(14)	0(0)
3	61(250)	108(4)	158(66)	162(0)	2(2)	1(0)
4	39(358)	59(6)	109(1,129)	156(54)	5(7)	1(0)
5	1(2,737)	56(140)	7(830)	165(55)	0(1)	1(0)
合計	2,264(4,817)	1,739(254)	1,287(2,091)	1,172(109)	49(66)	7(0)

予察灯：20Wブラックライト

()は前年の誘殺虫数







集合フェロモンによるクサギカメムシの誘殺虫数 (筑紫野市)

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
イチゴ	うどんこ病 炭疽病 アブラムシ類 ハダニ類	並 少ない 並 やや少ない	並 少ない 並 やや少ない
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	並 並 少ない	並 並 少ない
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	やや多い 少ない 少ない 並 やや多い	やや多い 少ない 少ない 並 やや多い
ネギ	シロイチモジヨトウ ネギハモグリバエ	並 やや多い	並 やや多い
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	やや多い

- ・ 平年値（過去 10 年間の平均）がない場合は、前年までの平均値を用いた。
- ・ アスパラガスは、前年との比較である。

【野 菜】

1 イチゴのうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発病は認められなかった。（平年：0%、前年：0%）

イ 気象予報では、10月の気温・降水量ともに平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 初発生は、新しく展開した葉の裏に認められるので、上位葉裏面の病斑の有無を随時確認し、早期発見に努める。

イ ビニル被覆期までに防除を徹底し、不要な下葉は早めに除去する。

ウ できる限り葉かぎを行い、薬液が葉裏にもかかりやすくする。

エ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

オ 農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める。防除薬剤については県野菜病虫害防除基準を参照する（以下の病虫害についても同様）。

2 イチゴの炭疽病

(*Colletotrichum acutatum* 菌による葉枯れ炭疽及び *Glomerella cingulata* 菌による炭疽病)

(1) 予報の内容

発生量：平年より少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発病株率は平均：0.1%（平年：0.5%、前年：0.1%）であった。

なお、今回の調査で確認した炭疽病は葉枯れ炭疽であり、調査ほ場で従来の炭疽病の発生は認められなかった。

イ 気象予報では、10月の気温・降水量ともに平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗期に本病が発生したほ場では、本ほでも発生する可能性が高い。

イ 発病を認めた場合は発病部位を早めに除去し、焼却するかビニルで完全に包み込み、周辺株への孢子の飛散を防止する。

ウ 茎葉の濡れている時間が長いと感染、発病しやすいので通風を良くする。

3 アスパラガスの斑点病

(1) 予報の内容

発生量：前年より多く、前々年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発病株率は平均：32.2%（前年：25%、前々年：67%）であり、一部ほ場で多発している。

イ 気象予報では、10月の気温・降水量ともに平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 過繁茂になると多発するので、整枝を的確に行いほ場内の通風をよくする。

イ 発病部位はできる限り取り除き、薬剤による防除を徹底する。

4 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：前年並で、前々年より多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、寄生株率は平均：42.2%（前年：40.6%、前々年：14%）であり、一部ほ場で多発している。

イ 気象予報では、10月の気温・降水量ともに平年並と予想されている。

5 ネギのネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、寄生株率は平均：9.8%（平年：1.9%、前年：7.8%）であった。

イ 気象予報では、10月の気温・降水量ともに平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼苗期に防除を徹底する。

イ 収穫終了後にハウス内土壌の表面を1週間程度ビニルで覆い、土壌中の蛹の死滅を図る。

6 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年並

(2) 予報の根拠

ア ネギでの9月5半旬調査の被害、寄生株率は平均：2.5%（平年：1.5%、前年：3.0%）であった。

イ 朝倉町長湊のフェロモントラップによる誘殺虫数は、8月5半旬～9月2半旬で310頭（平年：217.7頭、前年：296頭）、9月2半旬～9月5半旬で120頭（平年：192.1頭、前年：280頭）であった。

ウ 気象予報では、10月の気温・降水量ともに平年並と予想されている。

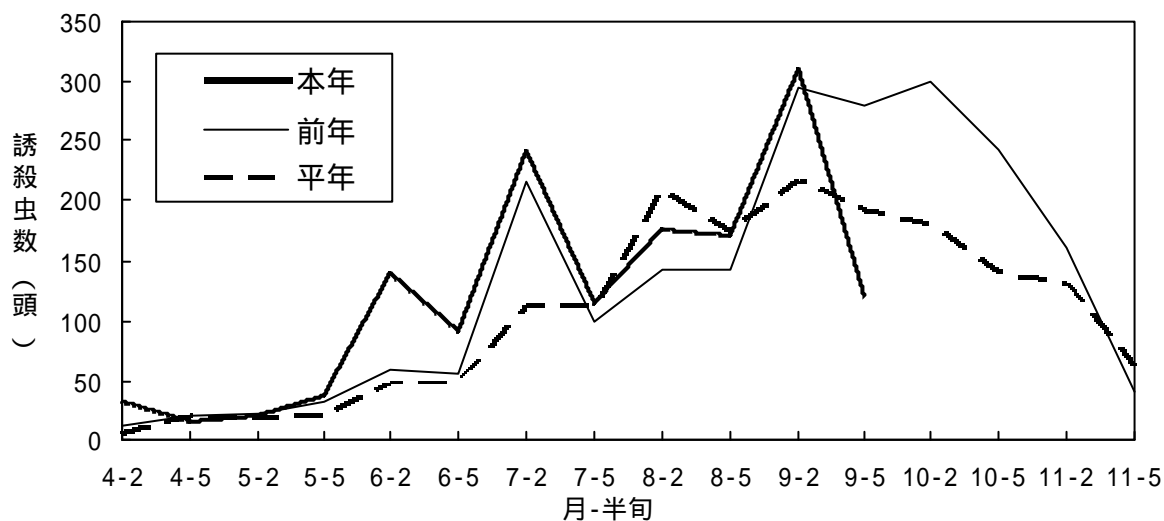
(3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

イ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

ウ ネギの場合、葉身に産下された卵塊から孵化した幼虫は、そのまま葉身に食入し内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。

エ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数の推移(朝倉町長湊)

7 野菜共通のハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 筑紫野市のフェロモントラップによる9月5～6半旬の誘殺虫数は401頭（平年：199.5頭、前年：302頭）であり、9月累計誘殺虫数は1,702頭（平年：1,039.5頭、前年：1,082頭）であった。（図2参照）

イ イチゴの9月5半旬調査の結果、寄生株率は平均：5.5%（平年：2.0%、前年：3.9%）、被害株率は平均：13.6%（平年：12.3%、前年：13.3%）であった。

ウ 気象予報では、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

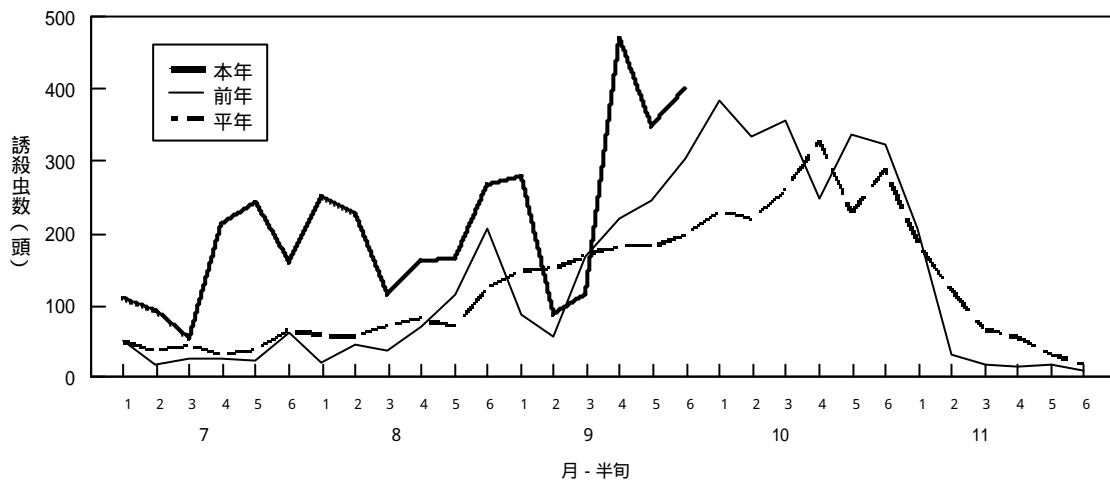
(3) 防除上注意すべき事項

ア 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するので、早期発見に努め、防除効果の高い若齢幼虫期に防除を徹底する。

イ 幼虫が食害するのは主に葉であるが、イチゴ、ナス、トマト等の果菜類では、花らいや果実も食害するので、発生状況については十分注意する。

ウ ほ場周辺に繁茂した雑草は増殖源になるので、丁寧に除去する。

エ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移（筑紫野市）

10月の気象予報（1か月）

（予報期間 9月28日～10月27日）

2002年9月27日
福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	50	30
降水量	30	50	20
日照時間	20	50	30

- < 1週目の予報 > 9月28日～10月4日
この期間の平均気温は、平年より高い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 10月5日～10月11日
この期間の平均気温は、平年並か低い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 10月12日～10月25日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
19.2	93.8	166.9	21.2	20.1	18.2

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス

www.jppn.ne.jp/fukuoka.

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jppn.ne.jp

テレホンサービス

092-928-6401（普通作・イグサ）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）